

ベネズエラの最新動向(5月26日～6月12日)

I. 外交

1. PDVSA、ボリビア国営石油会社YPFBとエネルギー協力協定を締結

- 5月26日、ラミレス PDVSA 総裁は、アルバラド・ボリビア国営石油会社 YPFB 総裁と複数のエネルギー協力協定を締結した。両社はジョイントベンチャー「Petroandina Comercio Suministro」を創設する。
- 両社の発表によると、ボリビアが権益の 51%を所有する予定の同ジョイントベンチャーの最初のプロジェクトは、ボリビア国内における 15ヶ所の新給油所の設置。他には、天然ガス関連プラント、窒素肥料工場「Fertisur」の設立、ボリビアでのガス上流部門における PDVSA の活動にかかる調査等が含まれている。また、ベネズエラでは国営石油化学企業 Pequiven 等においてボリビアの技術者を養成する。両社は、これらプロジェクトに合計 15 億ドル以上を投資する計画。
- 本協定はチャベス大統領がラ米で推進しているボリバル代替統合構想(ALBA)の一環として行なわれている¹。
- なお、2005年7月よりチャベス大統領はアンデス諸国の石油会社の連携を目的とする「ペトロアンディーナ」の創設を提案していたが、その後同構想にかかる目立った進展はなかった。今回の合意に見られるように、ベネズエラはボリビアとの関係を深化させているが、他のアンデス諸国とは、チャベス大統領がアンデス共同体からの脱退を宣言(2006年4月)する等、関係が複雑化している。

2. ベネズエラ、エクアドル両国首脳がエネルギー協力協定を締結

- 5月30日、エクアドルの首都キトにおいて、チャベス大統領とエクアドルのパラシオ大統領がエネルギー協力協定を締結した。エクアドル産原油を PDVSA がベネズエラ国内で 10 万 b/d を上限に精製し、エクアドルに石油製品を輸出する計画。
- エクアドルは、石油資源が豊富ながら国内の製油所が不足していることから、現在石油関連製品を米国等から輸入している。エクアドル政府は本協定により、年間 3 億ドル以上の支出を削減できる予定。
- エクアドル政府関係者は本協定はあくまでもテクニカルなもので、政治的なものではないと強調。ベネズエラが米国に対抗して進めているラ米地域のエネルギー部門の統合の動きに参加する意図はないと発表している。しかし、ラ米諸国のエネルギー資源「搾取」がホットイシューとなっている昨今、米オキシデンタル・ペトロリアムとの契約を破棄したばかりの同国政府²の、今後のベネズエラとの関係が注目される。

¹ ALBAとは、米国が提唱する米州自由貿易地域(FTAA)に対抗し、米国抜きでラ米の連携を目指すもの。

² エクアドル政府は5月15日、同国で石油事業を展開する米オキシデンタル・ペトロリアムとの契約を破棄。米当局は翌16日同国との自由貿易協定(FTA)交渉を打ち切ると発表している。

3. ベネズエラがアルジェリア、カタール、イランとエネルギー協力にかかる交渉を進展中

- ベネズエラはカラカスで開催された OPEC 総会(6月1日)に先立ち、OPEC 加盟国のアルジェリア、カタール、イランと各々二国間エネルギー協力にかかる交渉を進めた。
- ベネズエラのラミレスエネルギー石油大臣によると、PDVSA は子会社を通じ、アルジェリアの国営石油会社 Sonatrach との間でベネズエラ東部の Ensenada de Barcelona 地区の天然ガス埋蔵量調査にかかる協力協定を締結した。
- またベネズエラは、カタール及びイランとも各々ベネズエラにおける Plataforma Deltana、Rafael Urdaneta の天然ガスプロジェクトにかかる協力に関する交渉を行なった模様。

4. ペルー大統領選でガルシア候補が当選、ベネズエラ政府は二国関係に変更なしと発表

- 6月4日、ペルーで大統領選の決戦投票が行われ、中道左派のガルシア候補がチャベス・ベネズエラ大統領が支持を表明していた左派ウマラ候補を破り、当選。
- ベネズエラとペルーの外交関係は、本年4月末のベネズエラのアンデス共同体脱退表明を契機に悪化、両国の大使召還合戦に発展していた。ウマラ候補支持を公然と表明していたチャベス大統領は、ガルシア候補が当選したらペルーとの外交関係を断絶する等と表明していたが、ベネズエラ外務副大臣の発表によると、当面二国間関係には今後変更等ない模様。

II. 石油セクター

1. オリノコ川流域のカラボボ1鉱区で本年11月、埋蔵量の算定が完了する見通し

- PDVSA 子会社 CVP の Pedro Leon 氏によると、オリノコ川流域の1鉱区、カラボボ1における超重質油の埋蔵量算定が2006年11月に完了する見通し。実現すれば、オリノコ川流域で探鉱が進められている鉱区における埋蔵量算定完了第一号となる。算定はカナダ等で実績のある Ryder Scott 社が担当。Leon 氏によると、同鉱区の埋蔵量は50億バレル程度と見込まれている。
- カラボボ1は、PDVSA が外資系7社等と埋蔵量算定作業を進めているオリノコ川流域7鉱区の1つ。カラボボ1鉱区についてはPDVSA とブラジルのペトロブラスが共同で探鉱を進めている。

2. ベネズエラの石油生産量がゼネスト前のレベルまで回復

- ベネズエラの原油生産量は6月1日、2002年～2003年のゼネスト以来最大レベルの338万b/dとなった。PDVSA 役員 Luis Vierma 氏がカラカスの OPEC 臨時総会会場で発表したもの。PDVSA は、2006年末までに原油生産量を340万b/dに増加させることを目指していたが、これが事実上達成されたこととなった。
- Vierma 氏によると、生産量増加はPDVSA の製油所のみならず、各種ジョイントベンチャー、オリノコ川流域鉱区等で実現した。また、汚職等で昨年生産量が大幅に減少したスリア州での生産量回復も主な要因となったと見られる。

3. カラカスで OPEC の臨時総会開催、加盟国は現行の生産枠据え置きで合意

- 6 月 1 日、石油輸出国機構(OPEC)の臨時総会がカラカスにおいて開催された。ベネズエラは原油生産枠の削減を主張したが支持を得られず、加盟国は現行の公式生産枠(イラクを除く加盟国 10 カ国で 2,800 万 b/d)の据え置きで合意した。
- チャベス大統領は開幕演説で、米国批判を展開。「途上国である我々は、植民地主義等に長年苛まれてきた。米大統領は世界にとり脅威である。」等と主張。OPEC 加盟各国は、開催国のチャベス大統領を公然と批判することはなかったものの、演説に対する反応はやや冷たいものとなった。
- なおイランは原油の販売をドルではなくユーロで行うべきと主張、ベネズエラも同調したが、他の加盟国の支持は得られなかった。

III. その他

1. アンデス開発公社がベネズエラで初のポリバル建て同公社債券を発行予定

- アンデス開発公社(CAF)は 6 月 13 日、ベネズエラにおいて同国通貨建ての債券発行を予定している。CAF を含め、国際機関によるポリバル建ての債券の発行は同国初。総額 1 億ドル、償還期間 5 年の変動利付債で、予想利回りは約 7%。
- ポリバル建て債券の発行は、CAF が本年 5 月ペルーにおいて初の同国通貨(ヌエボ・ソル)建て債券を発行したのに続くもの。総額 7,500 万ドルの同ヌエボ・ソル建て債券は、同国の民間債では最大規模のものであった。

以上

本レポートは発表時の最新情報に基づいて作成されておりますが、情報の正確性又は完全性を保証するものではありません。また、レポートの内容は今後予告なしに変更されることがあります。予めご了承下さい。